

○令和3年度 教育事業

「自然体験活動指導者 NEAL リーダー養成事業(兼キャンプインストラクター養成事業)」

(R3.7.23 (金) ~25 (日))



◆目的

自然体験活動を安全で楽しい活動にするために必要な基礎的な知識や技術等を身に付けるとともに、指導者として自身の資質や能力について見つめ直す機会とする。

◆参加実績 (定員 20 名)

参加者 20 名

- ・ 青少年教育施設職員 (5 名)
- ・ 町教育委員会 (1 名)
- ・ 大学生 (9 名)
- ・ 教員 (2 名)
- ・ 保育士 (2 名)
- ・ 一般企業 (1 名)

◆プログラム

① 1 日目午前

- ・ ガイダンス

説明：主任講師 上ノ澤 友喜

参加者は NEAL について理解してもらうために、制度の成り立ちや資格の種類と必要な演習等について説明を受けた。

② 1 日目午後

- ・ 自然体験活動の特質
- ・ 青少年教育における体験活動

講師：北海道キャンプ協会 山田 亮 氏、下川原 清貴 氏

初めに施設周辺の森のなかを歩き、活動で使うフィールドを理解してもらう時間を設けた。その後、コンパスを使ったストレートハイクや落ち葉を使ったゲーム等を体験し、自然体験活動のもつ楽しさや良さを学んだ。

その後、青少年の問題や課題に触れ、何のために教育や体験活動を行うのか等の講義を受け、理解を深めた。

③ 1 日日夜

- ・ 対象者理解 (120 分)

講師：北海道キャンプ協会 下川原 清貴 氏

実際のキャンプや自然体験活動の経験を踏まえた講義を聞き対象者理解の重要性や年齢などに応じた様々な配慮が必要であることを学んだ。



④ 2日目午前～夜

- ・自然体験活動の安全管理
- ・自然体験活動の技術

講師：北海道キャンプ協会 山田 亮 氏

薪割りりと火おこしを行い、体験を通して安全に活動するために必要な視点や考え方を学び、基本的な技術を身に付けた。

午後はロープワークの技術と活動場所の安全管理を学ぶために野外に1人で宿泊する体験を行った。ブルーシートでシェルターを作ったり、テントを張ったりするなど、実際に学んだ技術を駆使し、自分の寝る場所を確保した。



⑥ 3日目午前

- ・自然体験活動の指導

講師：北海道キャンプ協会 下川原 清貴 氏

参加者へ指導するにあたり必要な基本的な心構えを講師の経験も踏まえながら講義を受け、指導者として手本となるような言葉遣いや態度、倫理観等が大事であることを学んだ。



◆事業運営・企画のポイント

○講義と体験のバランスを意識し、知識だけの教授にならず、体験から学んだり気づいたりできるように講師と内容を検討した。

○安全管理の実際として、真夏の自然体験活動で熱中症にならないために必要な配慮や対策について、具体的に解説しながら事業を運営した。



◆参加者の声

□座学の内容を実践できるアクティビティは良かった。

□お子さんへの接し方やコミュニケーションの取り方について、もっと上手くやりたいという意識が生まれたし、深まったので実践していきたい。

□日々の活動の振り返りができ、自分の不足している技術が明確になった。

◆事業の成果と課題

①参加者が必要な基礎的な知識や技術等を身に付けることができた。また、指導者として自身の資質や能力について見つめ直す機会にすることができた。

②活動内容が体力的に厳しかったという声があったため、複数の活動を用意し、参加者が選べるようにするなど、日頃自然体験活動を行っていない参加者へも配慮したプログラムを考える必要がある。